

- 41) 福嶋牧子, 金谷登紀子, 金子 昇, 星 隆夫, 森田修一, 宮崎秀夫, 齋藤 功: マルチブラケット装着患者に対する結晶性セルロースを用いた air polishing の有用性について. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 269, 2006.
- 42) 朝日藤寿一, 渡邊直子, 渡辺 厚, 小原彰浩, 金山 潔, アルグナイド タラト ハッサン, 毛利 環, 森田修一, 寺田一員, 高木律男, 齋藤 力, 小野和宏, 須佐美隆史, 幸地省子, 齋藤 功: 新潟大学における G0slon Yardstick による片側性唇顎口蓋裂症例の咬合評価 - 2 段階口蓋形成術の影響について. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集, 273, 2006.
- 43) 古里美幸, 森田修一, 朝日藤寿一, 竹村 史, 小野和宏, 高木律男, 齋藤 力, 齋藤 功: 片側性唇顎口蓋裂患者の成長発育に伴う外鼻形態の変化について. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 273, 2006.
- 44) AL-Gunaid T, Yamada K, Saito I: Soft tissue cephalometric norms for Yemeni adults. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 325, 2006.
- 45) AL-Gunaid T, Yamada K, Saito I: Orthognathic surgery norms of Yemeni adult males. 第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌, 2006. 9.13-15, プログラム・抄録集: 378, 2006.
- 46) 小野和宏, 小林正治, 齋藤 力, 福田純一, 高木律男, 朝日藤寿一, 竹山雅規, 齋藤 功: 唇顎口蓋裂の上顎歯列狭窄に対する骨延長法の応用. 第 51 回日本口腔外科学会総会, 北九州市, 2006.10. 12-13, 日本口腔外科学会雑誌総会特別号 52: 51, 2006.

【研究会発表】

- 1) 朝日藤寿一, 齋藤 功: JAPAN CLEFT 2002-2005 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設共同研究について. 第 1 回日本における口唇裂口蓋裂治療に関する多施設共同研究を考える会, 札幌, 2006. 9.19.
- 2) 朝日藤寿一, 齋藤 功: 片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設共同研究をいかに進めてゆくか - これまでの問題点について -. 第 2 回日本における口唇裂口蓋裂治療に関する多施設共同研究を考える会, 東京, 2007.1.11.

【その他】

- 1) 金谷登紀子: 学位論文紹介 - 矯正装置装着に伴うカリエスリスクおよび口腔内細菌叢の変化に関する研

- 究 - 新潟歯学会雑誌, 36: 93-95, 2006.
- 2) 八幡 誠: 学位論文紹介 - 下顎骨偏位と下顎頭位および下顎窩形態との関連性について, ヘリカル CT による検討 -. 新潟歯学会雑誌, 36: 73-75, 2006.
- 3) 渡辺 厚: 学位論文紹介 - 日本における 11 歳から 14 歳児を対象とした Index of Orthodontic Treatment Need(IOTN) -. 新潟歯学会雑誌, 36: 77-79, 2006.
- 4) 齋藤 功, 前田健康, 山田好秋: 留学生大学院教育の実質化による国際貢献 - 留学生のための実効性を高めた大学院教育 -. 大学教育改革プログラム合同フォーラム, 横浜, 2006.11.12-13, 大学教育改革プログラム合同フォーラム (選定取組の紹介) 93, 2006.

小児歯科学分野

【論文】

- 1) Yagi K, Matsuyama J, Mitomi T, Taguchi Y and Noda T: Changes in the mouthful weights of familiar foods with age of five years, eight years and adults. *Ped Dent J*, 16: 17-22, 2006.
- 2) Noda T, Takagi M, Hayashi-Sakai S, and Taguchi Y: Eruption disturbances in Japanese children and adolescents. *Ped Dent J*, 16: 50-56, 2006.
- 3) Hayashi-Sakai S, Sakai J, Sakamoto M, Kouda F and Noda T.: The gradient of microhardness in cross-sectioned sound primary molars. *J JSEM*, 6: 13-18, 2006.
- 4) Kijima H, Shingai T, Takahashi Y, Kajii Y, Fukushima S, Taguchi Y, Noda T and Yamada Y: Nitric oxide modulates elicitation of reflex swallowing from the pharynx in rats. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 291:651-656, 2006.
- 5) Kawagishi E, Nakakura-Ohshima K, Nomura S and Ohshima H: Pulpal responses to cavity preparation in aged rat molars. *Cell Tissue Res*. 326:111-22, 2006.
- 6) Tomizawa M, Sano T and Noda T: Oral conditions in Japanese infants: A retrospective study. *Ped Dent J*, 17:65-72, 2007.
- 7) Iizawa F, Nakakura-Ohshima K, Numa N, Noda, T: A case of eruption guidance for eruption disturbances of the bilateral second molars caused by supernumerary teeth. *Ped dent J*, 17: 100-105, 2007.
- 8) 木島 寛, 真貝富夫: 脳幹部での嚥下の情報伝達機構:

NMDA-NO 経路を中心として, 細胞, 38: 88-91, 2006.

- 9) 野田 忠: 教養教育科目『食べる』のやってきたこと, 大学教育研究年報, 11: 29-31, 2006.
- 10) 松山順子: 小児の一口量と咀嚼回数に関する分析, 新潟歯学会誌, 36: 59-60, 2006.
- 11) 木島 寛: ラットにおける嚙下反射誘発機構への一酸化窒素の関与についての研究, 新潟歯学会誌, 36: 267-268, 2006.
- 12) 沼 奈津子: 突然変異型組織非特異型アルカリホスファターゼ (V406A) の解析, 新潟歯学会誌, 36: 289-291, 2006.

【著書】

- 1) 野田 忠: いつまでも, 元気に, 美味しく食べたい (山田好秋, 野田 忠編). ブックレット新潟大学 44『食べる』介護編, 70 頁, 新潟日報事業社, 新潟, 2006.
- 2) 野田 忠, 田口 洋: 萌出障害の咬合誘導 - 知っておきたい原因と治療法 - (野田 忠編), 総 126 頁, 医学情報社, 東京, 2007.

【商業誌・その他】

- 1) 野田 忠: 新潟発『食べる』, Niigata University Campus Magazine, 160: 6 頁, 2006.
- 2) 野田 忠: 学生さんに引っ張られて教育褒賞. FD ニュース, 15: 45 頁, 2006.
- 3) 杉林篤徳: 歯の外傷およびマウスガードに関する保護者の意識調査. Thesis, 2007.

【研究成果報告書】

- 1) 野田 忠, 山田好秋, 田口 洋, 小林博昭, 福島伸一: 小児期の摂食・嚙下障害に関する基礎的研究: 摂食嚙下機能に影響する因子は何か. 平成 17-18 年度科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究 (B), 課題番号 17390550, 2007 年.
- 2) 松山順子, 富沢美恵子, 佐藤拓一, 高橋信博, 野田 忠: 口腔内細菌叢の定量的解析方法の確立と口腔疾患リスク評価への応用. 平成 17-18 年度科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究 (C), 課題番号 17592133, 2007 年.
- 3) 河野承子: 歯の形態形成におけるステロイド受容体の役割 - ステロイド療法の歯への作用機序解明 -. 平成 17-18 年度科学研究費補助金実績報告書, 若手研究 (B), 課題番号 17791518, 2007 年.
- 4) 飯澤二葉子: 歯根膜線維芽細胞における GDF-5 の特異的機能とシグナル伝達機構の解明. 平成 17-18 年度科学研究費補助金実績報告書, 若手研究 (B),

課題番号 17791516, 2007 年.

- 5) 渡邊淳一: OPG 遺伝子欠損マウスの歯牙再植実験による歯髄・歯周組織治癒過程に関する研究. 平成 17-18 年度科学研究費補助金実績報告書. 若手研究 (B), 課題番号 17791515, 2007 年.
- 6) 大島邦子, 大島勇人, 原田英光: 自家および他家移植実験を応用した歯髄分化能の解明. 平成 18 年度科学研究費助成金実績報告書, 基盤研究 (C) 一般, 課題番号 18592232, 2007 年.
- 7) 佐野富子: 唾液中フェニトイン濃度を用いた薬物性歯肉増殖症の発症機構に関する研究. 平成 18 年度科学研究費助成金実績報告書, 若手研究 (B), 課題番号 18791549, 2007 年.
- 8) 佐藤拓一, 島内英俊, 高橋信博, 八巻恵子, 松山順子: 根尖性歯周炎の微生物叢の網羅的定量的プロファイリング. 平成 18 年度科学研究費補助金実績報告書, 基盤研究 (C), 課題番号 17591985, 2007 年.
- 9) 坂井幸子 (林幸子): EPMA 元素マッピングからみた多方向荷重における象牙質面内異方性の解明. 平成 18 年度科学研究費補助金実績報告書, 若手研究 (B), 課題番号 18791548, 2007 年.
- 10) 河野承子: 歯牙硬組織形成における Na⁺ - K⁺ - ATPase の発現とその存在意義. 平成 18 年度新潟大学プロジェクト推進経費, (若手研究者奨励研究), 研究成果報告書, 2007 年.

【学会発表】

- 1) Sano T, Tomizawa M, Kajii Y and Noda T: Clinical studies on 23 cases of natal and neonatal teeth. The 5th conference of pediatric dentistry association of Asia, Taiwan, 2006.6.23-24, Program and Abstract : 86, 2006.
- 2) Numa N, Ishida Y, Nasu M, Oda K and Noda T: Analysis of tissue-nonspecific alkaline phosphatase with A (Val406Ala) mutation associated with a lethal hypophosphatasia patient. The 5th conference of pediatric dentistry association of Asia, Taiwan, 2006.6.23-24, Program and Abstract : 101, 2006.
- 3) Mitomi T, Tomizawa M and Noda T: Application of a Castillo-Morales palatal plate in Riga-Fede disease: report of two cases. The 5th conference of pediatric dentistry association of Asia, Taiwan, 2006.6.23, Program and Abstract : 102, 2006.
- 4) Kawano Y, Kinoshita-Kawano S, Nozawa-Inoue K, Suzuki A and Maeda T: Cyclic expression of epithelial sodium channel in rat enamel organ. 84th General Session & Exhibition of the IADR,

- Brisbane, 2006.6.28-7.1
- 5) Ohshima H, Ogawa R, Takamori Y, Saito C, Nakakura-Ohshima K, Sung-Won C, Han-Sung J :Capacity of Dental Pulp Differentiation after Tooth Transplantation, 84th General Session & Exhibition of the IADR, Brisbane, 2006.6.28-7.1
 - 6) Matsuyama J, Sato T, Takahashi N, Sato M and Hoshino E: Real-time PCR analysis of genera *Veillonella* and *Streptococcus* in Healthy supragingival plaque biofilm microflora of children. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science, Sendai, 2007.2.18-19, Program and Abstract : 48, 2007.
 - 7) Sato T, Abiko A, Mayanagi G, Matsuyama J and Takahashi N.: Detection of Periodontopathic bacteria in periodontal pockets by nested polymerase chain reaction. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science, Sendai, 2007.2. 18-19, Program and Abstract : 48, 2007.
 - 8) 川崎勝盛, 三富智恵, 野田 忠 : 下口唇にみられた Fibroepithelial polyp の一症例. 第 44 回日本小児歯科学会大会および総会, 松本, 2006. 5.25, 小児歯誌, 44: 246, 2006.
 - 9) 沼 奈津子, 石田陽子, 那須真樹子, 織田公光, 野田 忠 : 低ホスファターゼ症患者で報告されたアルカリホスファターゼのミスセンス突然変異の解析. 第 44 回日本小児歯科学会大会および総会, 松本, 2006. 5.25, 小児歯誌, 44: 250, 2006.
 - 10) 梶井 友佳, 田口 洋, 野田 忠 : 新潟大学医歯学総合病院小児歯科外来における初診患者の実態調査 - 1980 年, 1988 年, 1996 年, 2004 年の比較 -. 第 44 回日本小児歯科学会大会および総会, 松本, 2006. 5.25, 小児歯誌, 44: 305, 2006.
 - 11) 大島勇人, 高森恭彦, 石川裕子, 大島邦子, 監物新一, Han-Sung, J. : 歯髄には象牙芽細胞および骨芽細胞への分化能をもつ細胞群が存在する. 第 48 回歯科基礎医学会学術大会, 横浜, 2006. 9.22, 歯基礎誌, 48: 117, 2006.
 - 12) 松山順子, 佐藤拓一, 高橋信博, 佐藤ミチ子, 星野悦郎 : 小児の歯垢細菌叢の *Streptococcus*, *Veillonella* の定量的解析. 第 48 回歯科基礎医学会学術大会, 横浜, 2006. 9.23, 歯基礎誌, 48: 208, 2006.
 - 13) 杉林篤徳, 木下承子, 田口洋, 野田忠 : 歯の外傷およびマウスガードに関するアンケート調査 - サッカースクールの指導者と保護者の比較 -. 第 24 回日本小児歯科学会北日本地方会大会および総会, 郡山, 2006. 9.23
 - 14) 杉林篤徳, 木下承子, 田口洋, 野田忠 : 歯の外傷およびマウスガードに関する保護者の意識調査, 平成 18 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2006. 11. 11
 - 15) 大島勇人, 海野秀基, 鈴木啓展, 監物新一, 大島邦子, Sung-Won Cho, Jinglei Cai, Han-Sung Jung : 顎骨への歯の他家移植実験を利用した歯髄分化能の検索. 第 112 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪, 2006. 3.27-29, 解剖雑誌 82 (Suppl) : 2007, in press.
 - 16) 河野芳朗, 河野承子, 井上佳世子, 鈴木晶子, 前田健康 : ACP ディフェレンシャルディスプレイ法によるエナメル質形成に関与する遺伝子の検索 : ラット切歯における Calcyclin (S100A6) の発現. 第 112 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪, 2006. 3.27-29, 解剖雑誌 82 (Suppl) : 2007, in press.
- 【研究会発表】**
- 1) 田口 洋, 野田 忠 : 小児の咀嚼を考える - 復元学校給食実験を行って -. 第 44 回新潟県小児保健研究会, 新潟, 2006. 2. 15.
- 【その他】**
- 1) 野田 忠 : 新潟発『食べる』. 平成 18 年度 G コード科目, 新潟, 2006. 4.14.
 - 2) 大島 邦子 : 食べることと口の健康. 平成 18 年度 G コード科目, 新潟, 2006. 4.28.
 - 3) 田口 洋 : 哺乳、離乳、そして「食べる」へ. 平成 18 年度 G コード科目, 新潟, 2006. 5.12.
 - 4) 野田 忠 : 新潟発『食べる』まとめ. 平成 18 年度 G コード科目, 新潟, 2006. 7.28.
 - 5) 野田 忠 : むし歯の治療は嫌なもの, 新潟大学医歯学総合病院口蓋裂診療班母親教室, 新潟, 2006. 7.18.
 - 6) 野田 忠 : 28 年の体験からみえてきた学生教育, 新潟大学保健学科 FD, 新潟, 2006. 8. 9.
 - 7) 野田 忠, 真貝富夫, 山下 進, 増山由美子, 倉田真砂美, 小野義之 : 「新潟 酒の楽しみ」, 食と花の世界フォーラム新潟セミナー, 新潟, 2006.10.15.
 - 8) 野田 忠 : 子どもの歯・口. 日本事情自然系 B, 新潟, 2006.11. 1.
 - 9) 野田 忠 : 歯の萌出障害 I 総論 - 咬合の誘導と萌出障害 -, 一般開業医のための『小児歯科臨床のヒント』, 平成 18 年度新潟大学歯学部同窓会学術セミナー, 新潟, 2006.11.19.
 - 10) 田口 洋 : 歯の萌出障害 II 各論 - 頻度の高い萌出障害 -, 一般開業医のための『小児歯科臨床のヒ

- ント],平成18年度新潟大学歯学部同窓会学術セミナー,新潟,2006.11.19.
- 11) 大島邦子:自閉症児(者)の歯科治療,臨床研修医セミナー,新潟,2006.12.6.
 - 12) 野田 忠:「泣こう騒ごう小児歯科」から28年.最終講演,歯学部講堂,2007.2.1.
 - 13) 田口 洋:お口の健やかな発育にとって大切なことー歯の生え方・歯並び,歯のけが,食べることー,平成18年度歯科保健指導者講習会,柏崎,2007.2.8.
 - 14) 野田 忠:おっぱいを飲む,平成18年度NHK・BS文字放送,2006.4.
 - 15) 野田 忠:顎が小さくなっている?.平成18年度NHK・BS文字放送,2006.5.
 - 16) 田口 洋:離乳食の進め方,平成18年度NHK・BS文字放送,2006.6.
 - 17) 田口 洋:味覚形成と地域ぐるみの食育,平成18年度NHK・BS文字放送,2006.7.
 - 18) 田口 洋:けがで歯が欠けたら?.平成18年度NHK・BS文字放送,2006.8.
 - 19) 田口 洋:けがで歯が抜けてしまったら,平成18年度NHK・BS文字放送,2006.9.
 - 20) 田口 洋:歯のけが予防・マウスガード,平成18年度NHK・BS文字放送,2006.10.
 - 21) 大島 邦子:障害者の歯科治療,平成18年度NHK・BS文字放送,2006.11.
 - 22) 松山 順子:小児歯科からみた子どもの虐待,平成18年度NHK・BS文字放送,2006.12.
 - 23) 田口 洋:子育て支援からみた歯の萌出,平成18年度NHK・BS文字放送,2007.1.
 - 24) 大島 邦子:軽度発達障害とバリアフリー,平成18年度NHK・BS文字放送,2007.2.
 - 25) 大島 邦子:障害者特に自閉症児の歯科治療について.明倫短期大学歯科診療所セミナー,2007.2.16.

顎顔面放射線学分野

【論文】

- 1) 林 孝文,田中 礼,齊藤 力,高木律男.顎動脈の走行位置評価における超音波診断法の有用性ー造影CTとの比較ー.日顎変形誌16:12-15,2006.
 - 2) 小野和宏,大内章嗣,魚島勝美,林 孝文,西山秀昌,安島久雄,小林正治,瀬尾憲司,齊藤 功,程 じゅん,山田好秋,前田健康:歯科医学教育へのPBLテュートリアル導入ー新潟大学歯学部の試みー.日歯教誌,22:58-71,2006.
 - 3) 丸山 智,中里隆之,小山純市,鈴木 誠:臨床病理検討会レポート[第29回]上顎悪性神経鞘腫.新潟歯学会雑誌,36:239-242,2006.
 - 4) 平 周三,林 孝文,星名秀行,新垣 晋,石田 均,間島寧興:口腔顎顔面領域におけるFDG-PET検査の臨床応用.新潟核医学懇話会誌34:29-32,2006.
- 【著書】
- 1) 荒木和之,勝又明敏,金田 隆,小林 馨,佐野司,林 孝文,湯浅賢治,和光 衛 執筆,佐野司 編集:歯科放射線マニュアル 改訂第4版,東京,南山堂,2006.
- 【講演・シンポジウム】
- 1) 林 孝文.口腔内走査による舌癌の超音波診断ー舌粘膜の5層構造に基づいてー.第17回日本口腔病理学会総会・学術大会,シンポジウム形式3:非歯源性・上皮性腫瘍の良/悪性,新潟,2006.8.18-19.
 - 2) 林 孝文.口腔癌のリンパ節転移の診断と治療ーリンパ節転移の画像所見と病理所見の対応についてー.平成18年度口腔三学会合同研修会,福岡,2006.11.23-24.
 - 3) 林 孝文.超音波診断の検査方法ー顎関節ー.日本歯科放射線学会教育研修会第7回実技研修会,福岡,2006.11.26.
 - 4) 林 孝文.ワークショップ2:下顎歯肉癌取扱い指針の作成に向けて:T/N因子判定のための画像診断.第25回日本口腔腫瘍学会総会・学術集会,名古屋,2007.2.2-3.
 - 5) 勝良剛詞,斎藤美紀子,伊藤加代子,五十嵐敦子,林 孝文.ワークショップ:唾液腺疾患の画像診断:口腔乾燥症の超音波診断.第26回日本画像医学会,東京,2007.2.23-24.
- 【学会発表】
- 1) 林 孝文,平 周三,勝良剛詞,西山秀昌,新垣 晋,星名秀行.単純CTにおけるリンパ節内の高吸収域の出現・増大は頸部後発転移を示唆する.第24回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会,北九州,2006.1.26-27,日本口腔腫瘍学会誌18:153,2006.
 - 2) 林 孝文,平 周三,田中 礼.舌癌の後発頸部リンパ節転移の検出における単純CTとUSの意義.第65回日本医学放射線学会総会・学術集会,横浜,2006.4.7-9,日本医学放射線学会雑誌65回抄録集:189,2006.
 - 3) 田中 礼,林 孝文,丸山 智,西山秀昌,勝良剛詞,斎藤美紀子,平 周三,小山純市.慢性下顎骨骨髄炎のCT所見ー病理組織像との比較検討ー.第47回日本歯科放射線学会総会・学術大会,東京,2006.5.13-14,新潟歯学会雑誌35:259,2006.